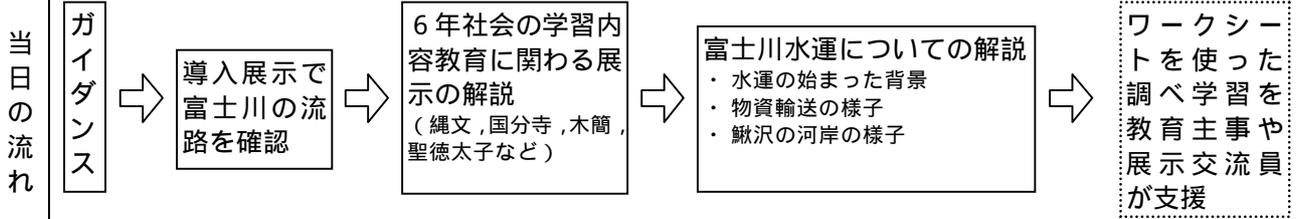


富士川水運について学びたい

落合小学校の6年生は総合的な学習の時間に「富士川水運と駿州往還」についての調べ学習をした。その導入、きっかけ作りとして、博物館を訪れ、富士川水運の展示を見学し、学習した。

事前 総合単元の導入として博物館を見学した。見学する前に、建設省『わたしたちの富士川』の富士川水運に関わるページを読んで、予備知識を得た。



富士川水運の展示資料

富士川水運の展示コーナーは高瀬舟をイメージした形となっているが、実際の高瀬舟はずっと大きかった。



下りの所要時間は富士川の急流を利用して6～8時間。ところが、上りは人力で引かなければならないので4日かかった。舟をロープで引くときに履いた足半草鞋。前かがみで引くので、かかとの部分がない。



舟を引っぱっているジオラマ(50分の1)。一人、竿を舟に差して押しているが、なぜか?



鵜沢の河岸の発掘現場を再現したコーナー。石垣の上には「御米蔵」があった。洪水から蔵を守るために石垣が築かれた。出土品も多く展示されている。



事後

バスに乗り、荊沢から鵜沢までゆっくり走ってもらって車窓から古そうなものを探した。帰りには、今度は歩いて、車窓からチャックしたものをじっくり観察した。学校に帰ってきて、それらのものについて調べる計画を立て、実際に調べて、ガイドマップにまとめた。
調べているうちに身延詣りに関する情報が出てきたので、身延山久遠寺まで行く計画を立てて、実行した。

一言

子どもたちにとって身近な地域の歴史を掘り起こし、学ぶことはとても大切だと思う。身近であれば、本やインターネットを通じた間接的な情報ばかりでなく、商店の主人や住職などの人から直接、話を聞いて情報を得ることができる。また、祖父母など身近な人の話を聞く機会にもなる。それらの人から聞くことばは、温かみのある、生きたことばである。それらを通して、子どもたちに地域を好きになる心が育まれると思う。

県立博物館には、そんな「地域を知る」きっかけ作りに貢献してもらいたいと思う。

(落合小学校 丸山哲也)